

Q 指示に従えず，また仕事を最後までやりとげないの
ですが・・・

中学1年のしゅん君は，いつも掃除などをまじめにやらない
ので，先生から注意を受けたり，同級生から文句を言われたり
しています。

そこで，先生はアセスメント（子どもの様子をじっくりと見て，どんなことが
このつまずきに関連しているかを考えること）をしました。

「まじめにやりなさい」「ちゃんと掃除をやれよ」などと言われ
ても，ほうきを持ったままふらふらしています。



ここで行われたアセスメントのポイント！

- 指示を聞いていないということも十分考えられるため，指示を聞いているかどうかを確かめる
- うなずいたりするために理解しているものと思ってしまうことがあるが，意外に分かっていない場合があるため，指示が具体的に何をさしているかを理解しているかどうか確認する

推測できるつまずきの要因

- 指示の具体的内容を理解していない
- やり方が分からない
- 集中できる時間が短い



指導編は以下に

A 1回で一つの指示をするようにする

「これとこれをやってから、次にこれを」のように1回でいくつかの指示を一緒にしてしまうと、どれか一つに反応したり、結果的にはどの指示も理解できなかつたりすることが分かりました。

そこで、少々面倒ですが、「1回で一つの指示」を徹底することにしました。

B 指示を具体的にする

「まじめにやりなさい」「ちゃんと掃除をきなさい」という表現を「この階段を掃いて」「ここからここまでの場所をモップで拭いて」「ゴミを捨ててきて」というような具体的な行動を示すようにしました。

担任の先生が行った指導の意味

しゅん君のような状態ですと、指示に従わない、自分勝手な子どもだ、不真面目だ、いつもサボっているという評価を受けてしまいますが、実は、指示の具体的な内容について分かっていなかったということがよくあります。

- Aのように、指示は、1回で一つが原則です。1回に複数の指示では、どれか一つだけに反応したり、混乱してどれにも反応しなかつたりしてしまいます。ですから「ちゃんと着替えて、脱いだものは片づけなさい」という指示では、脱ぎっぱなしになってしまうのです。原則からいえば、「着替えなさい」そして「片づけなさい」という指示になりますが、いちいちこの状態では面倒です。「ハンガーに制服をかけなさい」という指示ですと一度で済みます。このように効率のよい指示を工夫しながら、本人に分かりやすいものにしていかなくてはなりません。

- 指示は具体的でなければなりません。私たちが何気なく使っている表現は、意外と抽象的である場合が多いものです。「まじめにやる」「ちゃんとする」「迷惑をかけない」「頑張る」などは、具体的な行動とは結びつきにくいといえるかもしれません。「片づける」ということを、具体的にどうすることなのか分からなかった子どもがいます。Bのように「本を本棚に入れよう」「机の上のものを全部この箱に入れよう」と言ってあげた方が、その子どもには分かりやすいのです。いずれにしてもその子どもに分かる表現で伝えていかなくてはならないということです。